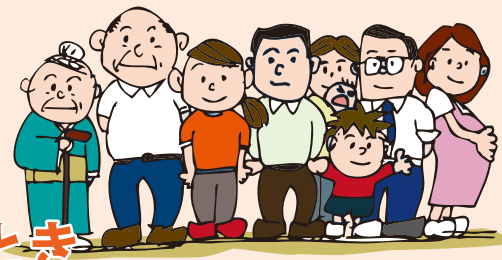


地域のちから



Point いざというとき
頼りになるのは地域のちからです

自分の命は、自分で守る

災害による犠牲者を無くすためには、市民一人ひとりが、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身である」という原点に立ち返ることが重要です。「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりになり、主体的に災害に備える姿勢を失ってははいけません。

家族の命は、家族で守る

自分の命を守ることができれば、家族を助けることができます。また、家族間でいざというときの対応を確認し、普段から備えていることが、家族の命を守ることに繋がります。

自分たちのまちは、自分たちで守る

自分の命、家族の命を主体的に守ることを地域住民同士が共有できれば、たとえ個人での対応が困難な場合であっても、それを可能にする大きな力が生まれます。

みんなで決めて、みんなで逃げる

災害時、避難が必要なことを分かっているにもかかわらず、なかなか一人では決断できないものです。みんなで判断することで、避難の決断がしやすくなります。

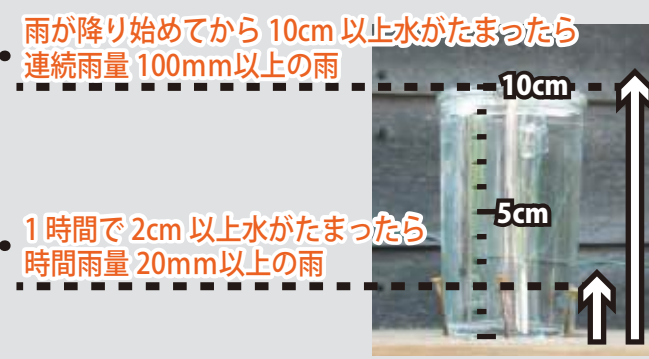


警戒開始の雨量基準

- 連続雨量 100mm に達した場合
- または
- 時間雨量 20mm に達した場合

これは、一般的に土砂災害の危険性が高まると言われている雨量です。日頃から雨量計測を行い、雨の降り方と周辺の様子に注意しましょう。

Point この雨量になったら土砂災害に警戒！



防災ファミリーサポート制度

多くの人々は、災害対応の責任の多くが行政にあると考え、また期待もしています。

しかし、実際の災害は多くの場合、行政にとっても想定外の外力で発生しています。想定外の力でわたしたちを襲う自然災害に対して、わたしたちの暮らしの全てを守りきることは不可能です。

市民の皆さまには、行政の対応だけでは守りきれない事態において、自分の身は自分で守る「自助」以外にないことを、あらためてご理解いただきたいのです。

加えて、自らの対応が充分に行えない避難行動要支援者には、**地域コミュニティ(=共助)**をもって対応していただくことも重要です。見附市では、防災ファミリーサポート制度により、避難行動要支援者が早期に安全な場所へ避難するため、「自助」および地域の「共助」を基本とした避難支援体制づくりを行っています。いざというとき、頼りになるのは地域のちからです。災害時、地域の共助による避難行動要支援者の安否確認や避難誘導・支援等にご協力をお願いします。



2017年6月11日
全市総合防災訓練

避難インフルエンサー

※インフルエンサーとは周囲に情報を拡散して他の人に影響を及ぼす人のこと。避難インフルエンサーは自身が避難するときに他の人に声をかけて避難を促す人です。

災害時、危険がすぐ近くまで迫っていても「自分は大丈夫」と思い込んでしまう「正常性バイアス」によって逃げ遅れ、命を落としてしまう人がいます。一方で、家族や近所の人など信頼している人から避難を呼びかけられたことで、避難を決断することができたという事例が多くあります。この「信頼する人からの声かけが避難行動につながる」という知見を活かして、災害時に避難を呼びかける「避難インフルエンサー(※)」の取り組みを進めています。

